

Lesson 1 Self-Introduction

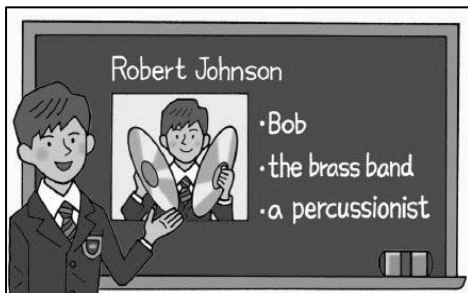
■自己紹介

あなたはどんな人でしょうか。名前、住んでいるところ、趣味、生活の中でいちばん好きなこと、これまでしてきた活動、どうしてその活動をしたのか。自分の好きなことやしてきたことを文章にして伝えることで、聞き手はあなたがどのような人か、顔を見ただけのときよりも、はっきりと想像できるようになります。同じ趣味の人、同じ活動をした人とは、もっと詳しい話ができるようになり、関係が深まるきっかけになります。



この章では、自己紹介を行います。自分の名前や、出身地、出身地の特産物や、観光地について説明すると、あなたがどのような場所で、何に囲まれて生きてきたのか伝わりやすくなります。あなたの趣味や、好きなこと、これまでの活動は、あなたの人となり聞き手に伝えるのに役立ちます。親しみやすく、わかりやすい文章で、自分のことを伝えてみましょう。

■オープニングで工夫したいこと



スピーチの冒頭は、聞き手が真っ先に耳にする部分であり、印象次第で、スピーチに集中させることができる部分です。あいさつや、「あなたは〇〇を知っていますか？」という質問など、聞き手の意識がスピーチに向くような文を冒頭にもってくると、聞き手は「どんな話かな？」と、スピーチに興味を持ちやすくなります。

また、棒読みをするのではなく、大きな声で、感情を込めて話すのもよい方法です。聞き手の注意が向きやすく、自分

に向かって話しかけられているような印象を持つからです。

自分の名前や住んでいるところなど、自分を表す内容で聞き手の印象に残ってほしいところは、大きな声で、少しゆっくり話すと、聞き取りやすくなります。また、できるだけ前を向いて聞き手に自分の顔がはっきり見えるように話すことも、よい印象を与えるのに役立ちます。笑顔だけでなく、信念などを語るときの真剣な表情など、感情が相手に伝わるからです。そのため、スピーチは原稿を見ながら行うのではなく、なるべく文章を暗記して、何も見ないで言えるようにするとよいでしょう。

■スピーチの練習

原稿を見ないでスピーチができるようにするために、次のような練習が効果的です。

最初に、原稿を1文黙読し、覚えます。

次に、原稿を見ずに、前を向いて、先ほど覚えた1文を言います。

これを繰り返し行い、できるようになったら、今度は覚える文を、2文、3文と増やします。それができるようになったら、原稿を見ずにスピーチの練習をしてみましょう。途中で止まったり、文がわからなくなったりする部分があれば、その文を、原稿を見て覚え、再度、見ずに全体を話してみます。

原稿を全部暗記できたら、鏡を見ながら練習し、相手に自分がどのように見えるか確認しましょう。数字や図形が話に出てくるところでは、ジェスチャーを加えてみるのも印象に残るスピーチにつながります。相手に特に伝えたい所はゆっくりと、またはっきり言うなど話すスピードも意識しましょう。